

情報教育の目標で分類した学習活動一覧（小学校段階）

提案：静岡大学情報学部・助教授・堀田龍也

情報活用能力の3要素	定義からの分類	小学校低学年（1, 2年）	小学校中学年（3, 4年）	小学校高学年（5, 6年）			
情報活用の実践力	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用する	情報手段の基礎的な操作習得	コンピュータの基本操作であるファイル操作を通して、ファイルやフォルダの概念を知り、ファイルのコピーなどをする（総合） キーボードを使って日本語入力をする（総合）	検索機能などを用いてインターネットで調べる（総合）			
		情報手段の適切な活用	プレゼンテーションソフトを使ってスライドを作成し、いろいろな前で発表する（総合） 後に利用する情報を収集し記録するためにデジタルカメラやビデオカメラを使う（総合） あらゆる活動場面でさまざまな情報手段を用いる（総合）	ビデオカメラで撮影した動画をもとに、伝えたい内容に合わせて簡単な編集をする（総合） ワープロなどで写真や図入りの文書を作り印刷する（総合）			
	必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造する	情報の収集・判断	見学やインタビュー内容の要点をメモに取りながら聞く（国語） 大切な情報がどれかを判断し、後に参照しやすいようにメモを残すことは、情報収集の基本技能となる	P61第3章第2節「A話すこと・聞くこと」 内容（1）-イ P65- 言語活動（1） 3-4年	我が国の国土や産業、歴史、政治の働き、世界の中の日本の役割などを調べるために情報手段を活用する（社会） 直接見聞きできない事象を調べるときにはさまざまな情報手段を活用する必要がある。特にしかるべき機関から発信されているインターネット上の情報が信頼性が高いことを教え活用させる	P59-75第3章第2節 2(1)(2)(3)(4) P129-132第4章1(4) 5年 P86-109第3章第3節 2(1)(2)(3) P129-	
			身近な地域の様子、地域社会の健康・安全な生活を支える仕組みについて、実際に見学し、さらに写真等の資料を活用しながら調べる（社会） 見学可能な事象における情報収集は実際に自分で現地に行って情報を収集させるが、補完する情報として写真や地域の人の話が参考になることを体験させる	P25-32第3章第1節 2(1)(2) 3年 P32-45第3章第1節 2(3)(4)(5) P23-24 第3章第1節1(3) 4年			
			地域の人々の生活の移り変わりについて、博物館・資料館を見学したり地域の人に話を聞いたりして調べる（社会） 地域のことであっても、見学が不可能な歴史的事象については、博物館や資料館、昔の情報を持っている人などから情報収集ができることを体験させる	P40-44第3章第1節 2(5) 3年			
			県（都、道、府）の様子や自分たちの市（区、町、村）の地理的位置等について、地図を活用したり、役所などへ問い合わせる資料を集めたりして、調べる（社会） 人口や産業に関する統計的資料を用いることは、客観的な情報を活用すること	P45-49第3章第1節 2(6) 4年			
	情報の表現・処理・創造	物事を整理分類して数え、絵などを用いた簡単な表やグラフなどの形に表す（算数） 共通点によって分類することは、情報の整理の基本的な体験となる。また、整理した結果を簡単な表やグラフに表すことは、情報の表現の基本的な体験となる	P73第3章-2【A数と計算】A(1)-オe P101一部記述 2年	日時、場所などの簡単な観点から分類の項目を選び、整理して表や棒グラフに表す（算数） 時系列・場所別によって分類することで、情報の効果的な整理ができる。また、整理した結果を棒グラフに表すことにより、直感的にとらえやすくなる	P101第3章-3【D数量関係】D(1) 3年	書く必要のある事柄を適切に取捨・選択したり整理したりして、意見文や紹介文を書く（国語） 物事はすべてを書き表すことができないため、取捨・選択が必要となる。意見文や紹介文の読者を想定し、書く必要のある事柄を適切に整理することは、情報の重み付けを考える体験となる	P104第3章第3節 「B書くこと」内容イ 5-6年
			二つの観点から物事を分類整理したり、論理的に起こり得る場合を調べたり、落ちや重なりがないように考えたりする（算数） クロス表による整理、落ちや重なりのない整理によって、情報を正確に分類する方法を知ることになる		P122第3章-4【D数量関係】D(3)-アとイ 4年	目的に応じて資料を分類整理し、それを円グラフ、帯グラフを用いて表す（算数） 円グラフや帯グラフは、全体の中での割合を示すグラフであり、調査結果などを表現する際に活用できる	P144第3章-5【D数量関係】D(3) 5年
			折れ線グラフの統計的な特徴や傾向をよみとったり調べたりする（算数） 変化に関する情報は折れ線グラフで表されることが多いため、情報の読み取りや予測などの基本的な体験となる		P126第3章-4【D数量関係】D(3)-ウ 4年	コンピュータなどを用いて表やグラフをわかりやすく表現する（算数） コンピュータは、同じデータをもとにいくつかのグラフを作り分けることができる。この機能によって、表現したい情報はどのグラフで表すのが適切かを検討したり、コンピュータのよさを体験させることができる	P60第2章第3節D数量関係-統計的な処理 5-6年
			見出しを付けたり記事を書いたり、割付をしたりしながら中心を明確にして学級新聞などを書く（国語） 情報の固まりごとに見出しを付けたり、伝えたいことの優先度を考えて割り付けることは、情報表現の基本的な体験となる		P69第3章第2節「B書くこと」-内容（1）-ウ P75 言語活動3-(1)	図や色、文字の大きさや配置などを工夫してコンピュータでポスターやチラシを作る（総合）	
受け手の状況などを踏まえて発信・伝達する		手紙文や発表の場を想定した記録文や学級新聞など、相手や目的に応じて、適切に書く（国語） 伝える相手に応じて、表現形態や書きぶりを変えることは、受け手を意識した情報発信の力として必要なものである		P68P69P71第3章第2節「B書くこと」-内容（1）-ア 3-4年	限られた時間の中で最大限に伝えられるような話の組み立てや言葉遣いで話す（国語） 限られた時間の中で最大限に伝えるためには、情報を整理し、組み立てを工夫する必要がある。プレゼンテーションの基本となる	P96第3章第3節「A話すこと・聞くこと」内容（1）-ア P101 言語活動3-(1) 5-6年	
		相手に伝わりやすいように写真を入れるなどの工夫したプレゼンテーションをする（総合）			自分の主張を明確にし、相手に伝わりやすいようにスライドの構成、提示順序、キャッチコピーなどを工夫したプレゼンテーションをする（総合）		
情報の科学的な理解	情報活用の基礎となる情報手段の特性		さまざまな情報手段について、その特徴を整理する（総合）				
	情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法				コンピュータが扱うデータには大きさが異なり、ファイルサイズや転送速度に影響することを調べる（総合） 自らの情報活用について記録し、評価し、改善する（総合）		
情報社会に参画する態度	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響		コンピュータやインターネットの使用が長くなり過ぎると、生活のリズムを崩すなどの影響が起こることを知り、健康に注意しながら活用しようとする（総合）		情報化の進展に伴い、多様な情報手段により多種多様な情報が生み出され提供され、それによって国民生活に様々な影響をもたらしており、生活の向上や産業の発展に大きな役割を果たしていることを考える（社会） 情報を伝える産業としてのマスメディアの理解や、情報化によって高度化する産業の様子を知ることは、情報社会に関する認識を深めることとなる	P68第3章第2節2(3) P69第3章第2節2(3)ア 5年	
	情報モラルの必要性や情報に対する責任		IDやパスワードの大切さを知る（総合）		ネットワークの先には人がいることを意識した、相手の立場に立った適切なコミュニケーションの大切さを知る（総合）		
			人の写真を撮る時や、他人の作ったものを使うときには、許可を得ることを知る（総合） 自分や友だちの個人情報を知らない人にむやみに教えてはならないことを知る（総合）		不適切であったり悪意がある情報や不正なサイトへの正しい対処法を知る（総合） 著作物や知的財産権を理解し、これらの権利を守ることがわかる（総合）		
			ネットワーク上には正しくない情報や危険な情報もあることを知る（総合） 文字だけのコミュニケーションは行き違いが起きやすいことを知る（総合）		インターネットの影響力の強さを知り、不確かな情報を発信しないようにする（総合）		
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度		メディアを経由した情報は、事実ではあってもそのまま現実を表しているとは限らないことを知る（総合）		メディアからの情報には発信者の意図と背景があることを理解し、情報を受ける側が情報の判断をする必要があることを知る（総合）			